

第3回 豊岡市障害者福祉計画策定・推進委員会 議事録要旨

注) 議事録要旨については、発言内容を一言一句正確に整理したものではありません。発言内容をもとに一部表現(文言)を変えて表記している箇所があります。

○日 時 平成29年10月30日(月)午後1時30分～

○会 場 豊岡市役所立野庁舎 多目的ホール

○出席者 浜上委員 中嶋委員 中井委員 足立委員 國下委員 宮下委員
大垣委員 桑井委員 酒井委員 小西委員 西池委員 谷委員
中江委員 林委員 高谷委員

○欠席者 田垣委員 川端委員 柳委員

報告事項

(1) 第1期障害児福祉計画に係るアンケート調査結果について

G委員：

- ・ アンケートは100%返ってきたのか。
- ・ サポートファイルがうまくいっていない原因は何か。

事務局：

- ・ アンケートの回収率は36.5%である。
- ・ サポートファイルは小学1年からで情報収集し、学校で管理されている。教育委員会とは状況について協議をしており、今後、活用していただくようお願いしていきたい。

(2) 第5期豊岡市障害福祉計画及び第1期障害児福祉計画の策定に係るグループインタビュー結果について

H委員：

- ・ 冠婚葬祭への手話通訳者の派遣は、直系親族の一親等のみという厳しい制限がある。社会参加という意味で幅広く利用できる制度にしてほしいという意見があった。
- ・ コミュニケーションについて、仕事の場では、ほとんどが筆談となり、手話でコミュニケーションをしてほしいというのが本当の意味である。
- ・ 聴覚障害者へのサポートについて、通訳者、奉仕員の養成講座のレベル差が大きく、その中間時期の手立てが必要ということである。

- 一番重要な意見は、通訳者がすぐに養成できないこと。そのため、教育の場などで手話に触れ、手話言語条例の制定が必要ということであった。

事務局：

- 内容の誤り等について、また、手話言語条例についても修正する。

D委員：

- 知的障害のグループインタビューでは、重度の方の意見を聞くには、家族か施設職員から意見を聞く必要があると感じた。
- 重症心身障害は、片道2時間かけてショートステイを利用している。豊岡病院にもショートステイはあるが週1回日中だけで、必要な時に利用できない。
- 学齢期の方が大半であったので、学校に通っている期間はよいが、卒業後に通っていくところは本当にはないであろうという意見であった。

事務局：

- すべての意見を拾い上げられていない部分もあり、確認して修正する。

委員長：

- グループインタビューで発言しても実現しないのであればストレスになり、悪循環となるようでは趣旨がずれているのではないかという感じを持っている。できれば次期までに事務局も含めて、考えていきながら進めていきたい。

K委員：

- 就労について、就労継続支援A・B、就労移行支援や一般就労が含まれているので分けて整理すればどうか。

協議事項

(1) 第5期豊岡市障害福祉計画・第1期豊岡市障害児福祉計画 目次構成 (案)、第1章、第2章第2節について

委員長：

- サービスに対する要求は大きくなっているが提供側がマンパワーとしてできるのかという問題、人材を育成していくことが市の計画として必要ではないか。

副委員長：

- 現場では、職員、看護師等の専門職が不足している。職員の配置基準だけではや

っていけない。

- 職員が配置されないと企業はやっていけない。市として福祉職に対する何か手立てがないものか。

委員長：

- かなり現実的で深い問題だと思うので、何らかの形で提供者側の福祉人材の確保を今期の計画に入れてはどうかと思う。

K委員：

- 今の資料では、数字の増減だけになっているので、マンパワー不足のところまでは見えてこない。もう少し内容を深められないか。
- 例えば、p17の地域生活支援事業の住宅入居等支援事業で「有」とあり、相談支援事業所では実施しているが、市全体で事業を実施しているわけではない。

D委員：

- 人材確保の課題を解決するための具体策が計画にあがってこないで、人材不足は解消していない。障害者福祉のことに限らずすべての業種でそうである。
- サービス見込量には、必然的に人材確保も含まれていることをどこかに明確に入れるのがよいと思う。

委員長：

- 人材確保は焦点が難しいと思うが、今期、具体的に何をあげていくのか詰めていければと思う。
- 障害者計画でも地域コミュニティとのサービスの提供方法を考えていく時期ではないか。

C委員：

- 人材の確保・育成は4期計画にもあるが具体的な策が何もない。具体的な内容がないと全く説得力に欠けて、文章の上滑りにしか見えない。
- 現時点では、地域コミュニティが障害者に関連していけるとは思えない。

(2) 計画策定にあたっての課題について

L委員：

- 重症心身障害の就労の項目について、企業側が障害への理解がないという内容は、介助者（母親）の就労のことであり、主語の記述が必要である。

事務局：

- 保護者の方の就労として修正する。

(3) 第5期豊岡市障害福祉計画策定に係る意見について（自立支援協議会）

委員長：

- 委員の中にも自立支援協議会のメンバーがたくさんおられるが、このようなまとめでよいか。このまとめでもかなり人材の確保の視点が提案されている。

D委員：

- 訪問看護は福祉サービスの枠ではないが、重心の方の場合は必要なサービスなので記載している。障害児支援の提供体制の整備等に挙げているが、具体的な数値が見えないとわかりにくいところがある。
- 計画策定は、福祉サービスの見込量を掲げる計画であるが、実績は現状追認なので、実績と見込量だけでは読みづらい。
- 実績と支給決定量、見込量を比較することで実態が見えてくるのではないか。

事務局：

- 実績値、支給決定量、見込量がわかれば、状況がよくわかると思う。支給決定量は時点を決めれば、拾えるかと思う。

D委員：

- 決定量と実績との差がどのくらいあるのか、それに万が一の時を考慮して、本当にどの程度見込むのかということではないか。

委員長：

- 例えば、ショートステイ、ホームヘルプぐらいに項目を絞って進めてはどうか。

D委員：

- 先程の報告で不満があがっていたのは、ホームヘルプ、ショートステイだったと思うのでそれで大丈夫だと思う。

副委員長：

- 加えて児童も必要だと思う。たくさん支給決定しても予備の分で取っているというご家族もあるので、数字の読み取りが難しく、断り書きが必要ではないか。

L 委員：

- ・ ショートステイのように使いにくい場合は、最初から載ってこないことになって、実績を出しても本当に必要な数字が見えてこないのではないかと思う。

D 委員：

- ・ 今まで支給決定したものと実績と比較したものを見たことがないので、比較してはどうかと思う。
- ・ 支給決定量は社会福祉課からの具体的な数字なので、何月時点であっても、実績があれば比較はできるのではないか。

委員長：

- ・ 課題を整理する上での提案かと思う。具体的に進めていく上で、事務局で可能か。

事務局：

- ・ 項目を絞れば、可能である。ただ、資料の 27，28 年度の実績値と今後示す数値は条件が一緒ではないので、そこはご了承願いたい。

委員長：

- ・ 今後の検討していく上でのテストケースとしたい。

C 委員：

- ・ 地域コミュニティにおいては、障害のある方も誰もが一緒に暮らせるまちづくりにもっていくことが必要である。
- ・ みんなと一緒に暮らせるまちづくりについて、積極的に取り組む方向でぜひコミュニティを進めていただきたい。

委員長：

- ・ 要求ではなく、お互いからの働きかけが必要だと思う。